

日本作業科学研究会ニュースー作ら，さくらー第5号



発行年月日 2008年12月25日

発行者 日本作業科学研究会

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

編集責任者 吉川ひろみ

第12回作業科学セミナー(JOSS)報告

去る平成20年11月22-23日、東京の文京学院大学にて、第12回作業科学セミナーを盛会のうち終えることができました。参加者は344名、2日間で述べ504名の方が参加してくださいました。また、懇親会には98名の方が参加してくださいました。多くの参加者が作業療法士でしたが、約40名の学生も参加してくれました。また、作業科学らしく、作業療法以外の学識分野から、理学療法士、研究者が参加くださいました。

まだまだ日本では、作業科学セミナーの場で多くの学識が交流し、活発に作業について語り合う状況にはなっておりませんが、毎年作業療法士以外の参加者がいることに大変喜びを感じます。

さて、都合により会場が途中移動になったことや、部屋が狭く折りたたみ椅子や別会場を使用せざるを得なかったことで大変ご不便をおかけしました。

回収したアンケートの概略は、セミナーに満足を示していただいておりますが、何件かの不備の指摘と作業科学に対する批判を頂いております。内容は、理事と第13回作業科学セミナーの運営委員にフィードバックし、日本の作業科学に発展の糧に、そして今後セミナー運営のために役立てたいと考えております。

演題発表には、多くの方が興味深く、自分の臨床への応用が可能だった、研究方法が興味深かった、今後勉強して分かるようになりたいという意見を書いていました。

佐藤剛記念講演、特別講演、教育講演には多くの方から、好評でした。作業科学の初学者の方々は、佐藤剛記念講演と教育講演に、面白く興味を持たたと書いており、作業科学セミナーへ複数回参加した事がある方々からは、2つの特別講演が好評でした。

セミナー参加者の全ての方のニーズに答える事は難しい事ですが、スタッフ一同これに挑戦してよかったと胸をなでおろした次第です。

作業科学セミナーに参加する・発表するという作業が、皆さんの年に1回の欠かすことのできない作業となり、参加することで多くの方々との交流を得て自分自身を幸せにし、作業を考えることや作業科学を学ぶことが意味深いこととなっているとうれしい限りです。

セミナー最終日に第13回作業科学セミナーの実行委員長となった村井真由美さんより、来年のセミナーの予告がありました。既に実行委員会が立ち上がり、講演者やパネリスト、興味深い企画が予告されました。来年も知的好奇心を刺激されるセミナーが開催されることが楽しみです。

セミナー開催に協力くださった日本作業科学研究会の会員の皆様、理事皆様、文京学院大学の教職員の皆様、そして多くの時間を作業科学セミナーの準備に割き共に準備運営をしてくれた仲間と学生ボランティアに感謝いたします。

(西野歩，社会医学技術学院)

参加者感想

平成20年11月，仕事の都合上2日目のみとなってしまうりましたが，初めて作業科学セミナーに参加させていただきました。僭越ながら感想を述べさせていただきます。

会場は文京学院大学，最寄駅は「東大前」・・・。気分は東大生になりきり颯爽と電車を降りました。改札を出ると青いTシャツを着た男性が道案内をしており，迷うことなく会場に到着。後ほど分かったことですが，青いTシャツは今回のセミナーに向け作成したユニフォームだったようで，ボランティアの皆さんが着用していました。アツイです。

セミナーは記念講演から演題発表の流れで行われ，多くの質問も投げかけられていました。中村春基先生の講演では事例を提示していただき，設備豊かな環境を活用しながら積極的に取り組む姿勢に熱意を感じました。また，対象者自身が出来ないと思っていることを経験してもらうことで少しずつ自信を取り戻していただく，という内容の言葉には感銘を受けました。

作業療法士1年目の私にとって，臨床場面は日々悩みの連続です。なかでも，“作業療法士として出来ることは何か”ということについては，学生時代から現在に至るまで考え続けております。しかし，未だに明確な答えは出ていません。今回のセミナーで発表していただいた講演や演題の中には難解な内容もありましたが，その多くが“作業が持つ意味”や，“作業が人間に与える影響”など，“作業そのものが持つ力”について言及されていたと感じました。作業科学について勉強不足ではありますが，聴講しながら“人にとって作業は重要である”ということを再認識できました。日々の悩みが解消されるわけではありませんが，セミナーに参加したことで作業療法士としての基本に立ち返ることができ，“胸のつかえが取れた”というのが率直な感想

です。

また，今回のセミナーは300名以上もの方々が参加され，こんなにも多くの方が作業科学に興味を持っているのかと驚き，そしてそれぞれが悩みを抱えているからこそ，この場に集まっているのだろうと思い，励まされる思いでした。まだまだ作業療法士としての道のりは始まったばかりですが，今後も対象者のために悩み，そして勉強していきたいと思えます。

(小林史明 島村記念病院)

講演者ヨセフソン氏からのメッセージ

Dear Colleagues!

It was a great pleasure to meet with you all at the OS symposium in Tokyo a little while ago! I was impressed by the heart-warming atmosphere as well as the intellectual discussions that unfolded during these days.

As promised I enclose the references to my presentation here. Also do not hesitate to contact me! I am looking forward to continue the dialogues with you!

Warmly! Staffan

親愛なる皆さん しばらく前になりますが，東京でのOSシンポジウムで皆さんに会えたことをたいへん嬉しく思いました。印象深かったのは，幅広い教養あるディスカッションと，心温まる雰囲気でした。お約束通り，私の講演に関する文献をお届けします。また遠慮なく直接私にご連絡ください。皆さんとの対話が続くことを期待しています。心をこめて。スタファン

(Staffan Josephsson PhD OT

Division of Occupational Therapy
Karolinska Institutet Sweden)

<文献>

Aristotle. (1920). Aristotle on the art of poetry. New York: Oxford University press.

Bruner, J. (1990) Acts of meaning. Cambridge, Mass: Harvard University Press.

- Dickie, Cutchin & Humphry (2006)
Occupation as Transactional Experience: A critique of Individualism in Occupational Science. *Journal of Occupational Science*, 13, 1 83-99
- Gallese, V. & Lakoff, G. The brain's Concepts: The role of the Sensory-Motor System in Conceptual Knowledge. *Cognitive Neuropsychology* 22(3-4):455-479.
- Josephsson, S., Asaba, E., Jonsson, H., & Alsaker, S. (2006). Creativity and order in communication: Implications from philosophy to narrative research concerning human occupation. *Scandinavian Journal of Occupational Therapy*, 13(2), 125-132.
- Josephsson, S. Backman, L. Borell, L. Bernspang, Nygard, L. & Ronnberg, L. (1993) Supporting everyday activities in dementia: An intervention Study. *International Journal of Geriatric Psychiatry* 8 (5): 395-400.
- Ricoeur, P. (1984). *Time and Narrative*, vol I-III. Chicago: The University of Chicago Press.

平成20年度 総会報告

日本作業科学研究会第3回総会議事録

【日時】平成20年11月23日 11:40~13時

【場所】文京学院大学(東京都文京区)

【議長選出・書記・議事録署名人の任命】

議長:古山千佳子(県立広島大学)

副議長:青山真美(西九州大学)

書記:岩見彩子(介護老人保健施設 恵み野ケアサポート), 梅田育子(高橋脳神経外科病院)

議事録署名人:渡辺明日香(北海道文教大学), 向井聖子(北海道文教大学)

【定足数報告】現在会員数241名。総会成立必要会員数80名。総会参加55名, 委任状提出41名, 合計96名で総会成立

【議題】

第1号議案 平成19年度(2007年10月~2008年9月)事業報告の件 → 承認

第2号議案 平成19年度(2007年10月~2008年9月)決算報告・監査意見書の件 → 承認

第3号議案 平成20年度(2008年10月~2009年9月)事業計画及び予算案の件
議案書の訂正:会費 600,000→500,000
事業収入 8,000→108,000

質問:支出における負担金, ENOTHE 会費とは何か。

回答:ENOTHEとはヨーロッパ高等教育団体である European Network of Occupational Therapy in Higher Education のことである。本研究会はENOTHEに加入し, 作業科学に関する情報収集を行っているため, 20年度年会費として200€を支払っている。

質問:支出における給料手当の予算額が少ないのはなぜか。

回答:昨年度まではセミナー開催における収支予算を研究会の予算に組み入れていたが, 今年度からはセミナーと研究会の予算案を分けている。そのため, セミナーで必要となる「通訳・翻訳料」は研究会の予算に含めていない。

第4号議案 役員選任の件

役員数と立候補者数が同数のため会則25条により無投票当選(立候補順)

理事 宮前珠子(聖隷クリストファー大学), 近藤知子(帝京科学大学), 吉川ひろみ(県立広島大学), 西野歩(専門学校社会医学技術学院), 浅羽エリック(浅羽医学研究所附属岡南病院), 坂上真理(札幌医科大学), 村井真由美(介護老人保健施設 愛と結の街), 港美雪(吉備国際大学) ボンジェ・ペイター(藍野大学)

監事 西上忠臣(押尾クリニック精神科デイケア MOMO), 西方桂子(練馬区保健福祉部介護予防担当課)

→ 承認

第5号議案 次期作業科学セミナー大会長承認の件

第13回作業科学セミナー大会長に村井真由美(介護老人保健施設 愛と結の街)
→ 承認

平成20年度 第1回理事会報告

【日時】平成20年11月23日16~17時

【場所】文京学院大学(東京都文京区)

【出席者】宮前, 港, 吉川, 浅羽, 西野, ボンジェ, 村井, 岡本, 近藤, 西上, 西方, 坂上(記録)

【議題】

新年度役員と役割

理事 宮前珠子(会長), 村井真由美(副会長, 機関誌, 第13回JOSS), 吉川ひろみ(副会長, 広報), 坂上真理(事務局, ISOS), 浅羽エリック(ホームページ, ISOS), 近藤知子(広報), 西野歩(JOSS, 機関誌), ボンジェペイター(JOSS, JOS), 港美雪(機関誌)

監事 西方佳子, 西上忠臣

顧問 岡本珠代

機関誌 「作業科学研究」第2巻発刊。第3巻には, 10回, 9回セミナーの抄録や題目を編集して掲載予定。2001~2003年についても順次掲載する方針。医学中央雑誌収録誌とするため, 第2巻を上梓し審査をうける。

ホームページの英語サイト完成。日本語と英語同時に改定。毎月1000件以上のアクセス有。うち海外からは300件。メンバーズサイト用新パスワードは, 12月10日発行予定。会員個別パスワードの発行は経済的に困難。
⑤英語サイトが開設した等, 更新時会員にメールで周知する。JOS 日本語要旨は広報が担当。

4. **ニューズ**は12月, 6月に発行予定。

第12回セミナー参加者344名, 延べ人数504名。今年度から10万円のランニングコスト

を予算化。次回理事会で記念講演の基準(本研究会への貢献など)を検討。

第13回セミナー福岡県内で候補地を検討中。佐藤記念講演は港美雪氏を推薦→了承。台湾からJin Ling-Lo氏を招聘予定。開催時期は例年通りで11月22, 23日の予定。実践に結びつくような内容にしたい。福岡在住の障害をもった方のワークショップ, ネットワーク作りをテーマとしたシンポジウムを予定。研究発表は事前に内容を指定したい。抄録の長さ(今回800字), 複数会場での開催の検討が必要。

デニス・リード氏(トロント大学教授)来日に合わせ, 研究会謝金として10万円の予算がある。各訪問地単位で研修会企画予定。

ENOTHEで当面作業科学関連会議がないので退会予定。

【報告事項】

会員数は262名(平成20年12月3日現在)。

会費滞納者を含めると304名。

次回理事会は6月福島学会時を予定。

デニス・リード氏 講演予定

トロント大学作業科学・作業療学科教授のDenise Reid氏が4月9日から約2か月来日されます。Reid氏は2005年と2008年のJournal of Occupational Science誌で

「Occupational Presence」という理論を発表しています。作業をしている様子を観察しただけ(occupational engagement)では, 本当にその作業を行う人が実感としてその作業を経験している(occupational presence)かどうか分からない, という点について言及しています。

Reid氏は大学教員に対して与えられるサバティカル(研究のための有給休暇制度)という権利を使って来日します。研究会でも研修会を企画しています(5月に東京で開催予定)。詳細はホームページでお知らせします。

第13回作業科学セミナーお知らせ

2009年11月22日(日)・23日(月・祝)、場所は福岡国際医療福祉学院(福岡県福岡市)で開催予定です(皆様来年度の予定にお入れください)。福岡は陸海空共にアクセス良好、おいしいものがたくさんあり、風光明媚な観光地も多く、九州各地へのアクセスがよいところです。当セミナーでは、理事会報告にあるような内容を企画しています。今回の実行委員は過去の作業科学セミナーが縁で知り合った九州在住の有志です。2日間、作業にどっぷり浸り、考える、楽しい「作業祭り」にしたいと考えています。詳細に関しては随時当研究会のホームページでアップデートしていきますのでご覧ください。皆様のお越しをお待ちしております。

(村井真由美, 愛と結の街)

事務局からのお願い

「研究会メールと機関誌，あなたとあなたの“OS友”に届いていますか？」

11月末に「作業科学研究」第2巻第1号が発行され、平成19年度と20年度の年会費を納入された皆様に郵送しております。また、平成20年12月20日に研究会ホームページ会員専用サイトのパスワードが変更され、そのご案内をメールで送っております。しかし、職場や登録時のアドレス変更等のためか、送ったもののうち数件が事務局に戻ってきております。変更事項のあった方、メールや機関誌がお手元に届いていない方は、事務局までご連絡をお願いいたします。事務局からも確認作業をしておりますが、お近くの作業科学研究会会員にこれらが届いているか一言お声をかけていただけると幸いです。

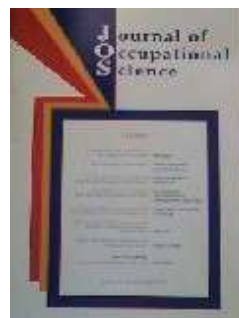
事務局アドレス：secretariat@jssso.jp

(坂上真理, 札幌医科大学)

作業科学専門学術誌 JOS

Journal of Occupational Science (JOS) には、作業とは何か、作業が人生や世界にとってどんな意味があるか、を探究した研究が満載されています。

年3号発行されていて個人契約では AUD \$85.00, 組織契約では AUD \$265.00 です。



購読手続きは

1. JOS サイトにアクセスする
<http://www.jos.edu.au/>
2. 左側の **Subscribe to JOS** をクリック
3. **Apply online using your credit card** (オンライン) か **Download our print and fax form** (申込書) どちらかをクリック
4. オンラインの場合、記入して送信する
5. 申込書は記入して、ファックスするか、次の住所に郵送する(切手は110円分)

Journal of Occupational Science
Occupational Therapy
School of Health Sciences
University of South Australia
GPO Box 2471, Adelaide SA 5001
AUSTRALIA

JOS は1993年に創刊され、世界の作業科学研究を知ることができる唯一の専門学術誌です。購読すると過去のジャーナルもオンラインで読むことができます。

編集者からのお知らせ

お知らせや雑感など、このニュースに掲載したい記事がある会員は、吉川ひろみ yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp まで、随時お送りください。ニュース発行は年2回の予定です。